

シンポジウム | 特別講演

教育問題シンポジウム

老年歯科医学の卒前教育の実態はどうなっている？

座長: 福島 正義(福島県昭和村国民健康保険診療所／新潟大学歯学部)

Sat. Jun 23, 2018 9:30 AM - 10:40 AM 第2会場 (1F 小ホール)

【略歴】

1978年 新潟大学歯学部卒業
1982年 新潟大学大学院歯学研究科修了
1982年 新潟大学助手・歯学部附属病院 (第1保存科)
1986年 新潟大学講師・歯学部附属病院 (第1保存科)
2001年 新潟大学助教授・歯学部附属病院 (総合診療部)
2004年 新潟大学教授・医歯学系 (歯学部口腔生命福祉学科)
2018年 福島県昭和村国民健康保険診療所歯科長
日本老年歯科医学会終身認定医・終身指導医・理事
日本歯科保存学会専門医・指導医・理事
日本接着歯学会終身認定医・前会長
日本歯科審美学会認定医・常任理事
日本歯科理工学会DMSA

【抄録】

平成29年版高齢社会白書によると、高齢化率は27.3%に上っている。人類史上かつてない超高齢社会の到来に伴い、歯学教育における老年歯科医学教育の充実が急務である。教育問題検討委員会では、2015年に老年歯科医学教育基準を公表した。しかし、わが国の歯科大学・大学歯学部および歯科衛生士養成校における老年歯科医学教育に関する講義・実習の実施状況や教育基準の内容がどの程度教授されているかは不明であった。そこで、2017年に歯学生および歯科衛生士学生に対する老年歯科医学教育の実態を明らかにするためにWebアンケート調査を実施した。本シンポジウムでは学会誌に公表された今回の調査結果を解説する。さらに、2017年に歯学教育モデル・コア・カリキュラム (平成28年度改訂版) と歯科医師国家試験出題基準 (平成30年版) が相次いで公表されたことにより本学会の教育基準との整合性を確認し、これらの分析を総括して教育機関における教育体制のあり方を考察する。

[S7-5] 歯科医師国家試験と老年歯科医学

○小笠原 正¹ (1. 松本歯科大学地域連携歯科学講座)

【略歴】

1983年 松本歯科大学卒業
松本歯科大学障害者歯科学講座助手
1990年 歯学博士, 松本歯科大学講師 (障害者歯科学講座)
2000年 松本歯科大学助教授
2007年 松本歯科大学教授 (特殊診療科, 大学院健康増進口腔科学講座)
2008年 松本歯科大学教授 (障害者歯科学講座, 病院特殊診療科教授兼務, 大学院教授兼務)
2018年 松本歯科大学教授 (地域連携歯科学講座, 大学院教授兼務, 総合歯科医学研究所兼務)
日本老年歯科医学会理事・専門医・指導医
日本障害者歯科学会理事・専門医・指導医・教育検討委員会歯学部会委員長・専門医委員会委員長・診療ガイドライン作成委員会委員
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士・評議員・認定委員会委員
日本有病者歯科学会会員・日本有病者歯科医療学会編『有病者歯科学』編集委員

昭和60年に歯科医師国家試験出題基準が初めて策定されたときの老年人口は10.3%であったが、最近のデータ（2016年）では27.3%である。超高齢社会になり、歯学部教育における老年歯科医学教育の社会的ニーズがますます高まっているのを受けて、平成22年の出題基準では、大項目のなかに高齢者の名称があるのみであったが、平成26年の出題基準では、「各論VI 高齢者の歯科診療」と位置づけられ、国家試験問題の出題割合が約6%とされた。さらに平成30年度の出題基準では、国家試験問題の出題割合が約8%と増加した。過去10年間の歯科医師国家試験問題をみていくと、如実に社会ニーズが反映された出題傾向となっている。歯科医師国家試験出題基準と過去10年間の出題された問題をひもとき、老年歯科医学会の教育基準との関連を見直すとともに10年間の出題状況を確認し、改めて老年歯科医学の教育を考える機会にしたい。